

五代物語
歷代編年

〔實悟記〕二月三日永祿十五日ニ勤行齋ナド御入ナキヲ他宗ノ聞及候テ事ノホカニ不審ヲナシ

テ難シ申候事ニテ候カ如何ノ御事候ヤ蓮如上人ノ御時ハ勤御入候ト申人モ候圓如上人モ又
難シ申事御聞候一段ト勝事ト思食實如上人ノ御時可有御申トノ御事ニテ候キ既ニ益モ彼岸

モ就佛說御入候ウヘハ涅槃ハント御入候ハテ不可叶御事ニテ候ツル諸宗一同涅槃儀有事ニ
テ候由ニサフラウ

〔花洛名勝圖會八〕惠日山東福寺略○中 例年二月十四日十五日佛殿に懸るところの涅槃像の大

幅は應永十五年六月兆殿司五十七歳にして圖するよし脇書にあり横四間其筆精の絶妙たる
や實に本朝無雙といふべければ其名畫の聞え高く彼兩日詣人に縦觀せしむこの日貴賤の遊
客辨當始と號して群集す

〔諸國年中行事大成二上〕十五日今日諸寺に掛る所の涅槃像の中名畫と稱するもの佛光寺新坊

の像唐筆涅槃前十日西の岡長法寺の像唐筆十六日京極通廬山寺の像思恭筆佛足を摩る人を書
一老婆哀んで佛足に涙を落し異色となす又今日二條通木屋町善導寺に掛る所の三十二相の
ものなりと釋迦譜を引て此像を證とす

觀音十六羅漢の像最奇觀なり其餘寺院に安する所の名畫多し繁によつて略之江戸大坂及び

大雲院涅槃會 京極通四條の南にあり 巳刻釋迦佛像惠心作長二尺三寸與に乗せ衆僧香華を捧げ行

樂を奏して本堂より羅漢堂に迂し樂法事あり日中舍利會を修し申刻釋尊の像を本堂に還座

なさしめ行粧始法事音樂あり開山貞安上人よりこれを勤む略中 嗟峨さあは柱炬はしらたき 清涼寺釋迦堂

前に於て大續松三基を建て暮に及び火を點じ各續松を繞り彌陀號を唱ふ是西域に於て釋尊
の遺骸を茶毘せし遺意なりとぞ其式釋迦堂の前に四間許の大炬を三ヶ所に立めぐりには竹